

Fukui Health Science University Graduate School



■ 福井駅西口バスターミナル②番のりばから約35分、「福井医療大学」下車。

■ えちぜん鉄道三国芦原線「新田塚駅」下車、
福井総合クリニック停留所から
京福バス26系統福井総合病院線で「福井医療大学」下車。

 福井医療大学大学院

福井医療大学 入学広報室

〒910-3190 福井市江上町55-13-1

TEL (0776)59-2207

E-mail daigaku@fukui-hsu.ac.jp



保健医療学研究科 保健医療学専攻

博士前期課程

- 神経系リハビリテーションコース
- 運動器リハビリテーションコース
- 健康生活支援コース

博士後期課程

- 生活支援リハビリテーションコース

 福井医療大学大学院

現代社会のニーズに応える人材を育成。

近年、医療の進歩・発展に伴い、保健医療関連職に対する社会的ニーズは多様化しており、細分化・専門化した精緻な医療と、総合的・全人的視点からのケアが求められています。そのような社会的ニーズに応えることができる人材を育成するには、大学院レベルでの教育が不可欠です。また、これまで福井県には保健医療学領域の大学院はありませんでした。このような背景を踏まえ、福井医療大学では大学院を開設、高度な専門性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目指します。



3つのポイント

- POINT 01** 福井県唯一の保健医療学領域の大学院
- POINT 02** 「リハビリテーション」と「看護」を融合した幅広い研究を行える
- POINT 03** 新田塚医療福祉センターの多彩な併設施設

博士前期課程

研究科・専攻の名称 保健医療学研究科 保健医療学専攻
Graduate School of Health Science Master Course of Health Sciences

学位の名称 修士(保健医療学)
Master of Health Sciences

修業年限、定員 修業年限2年(長期履修制度あり)、入学定員10名、収容定員20名

博士後期課程

研究科・専攻の名称 保健医療学研究科 保健医療学専攻
Graduate School of Health Science Doctor Program in Health Science

学位の名称 博士(保健医療学)
Doctor of Philosophy in Health Science

修業年限、定員 修業年限3年(長期履修制度あり)、入学定員3名、収容定員9名



教育目標

科学的根拠に基づいた医療および生活の支援を実践する能力、研究を通して培った科学的・論理的思考を活かし、新たな方向性を創造する研究力、さらに後進の育成を推進する教育力をもった、高度専門職業人の育成を目標とする。

学長ご挨拶

高齢化社会に必要とされる高度医療実践者・研究者などを育成します。

福井医療大学は理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、看護学の高度な知識と技術を身に付け、人間性豊かで、質の高い医療人の育成に努めてきました。さらに高度な専門性と高い倫理観を兼ね備えた研究者、教育者、高度医療実践者の育成を目指して、博士課程を加え、保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程と博士後期課程として大学院を新しく改組しました。博士前期課程では運動器リハビリテーションコース、神経系リハビリテーションコース、健康生活支援コースの3つの研究コースを設け、保健医療学分野の研究推進とともにその実践を担うリーダーを養成してきます。博士後期課程では生活支援リハビリテーションコースで障害者や高齢者が社会活動を営むにあたっての多様な課題を包括的に探究できる研究者や指導者の育成を目指しています。

高齢化社会が進む中で、身体的、精神的に問題を抱え、リハビリテーションや介護を必要とする人も多くなり、これらの人たちを支える高度医療実践者や研究者、指導者の育成は待ったなしです。さらに健康障害を予防する研究や実践も今まで以上に重要となります。本大学院では保健医療学に関する幅広い学識と卓越した問題解決能力を有する高度専門

職業人や研究者や教育者として専門領域および地域に貢献して、社会の信頼にこたえることのできる指導者を輩出していくことを目指します。リハビリテーション領域の大学院は福井県唯一で、注目度が高く、期待も大きく、しっかりとしたカリキュラムを構成し、優秀な教員による指導体制で皆さんをお迎えします。本学の母体となる新田塚医療センターは多くの保健・医療施設を有していますので、医療・福祉の現場を身近に感じながら学ぶことができる充実した教育環境が整っています。有職者が離職することなく就学できる体制を整え、病院などに勤務しながら無理なく勉学、研究に励むことも可能です。

保健・医療・福祉の場で指導的役割を果たす高度職業人や教育研究者としてのキャリアアップを目指したいという熱い志を持った方々をお待ちしています。



学長／医学博士 山口明夫

研究科長ご挨拶

本大学院ならではの特色ある学びで、みなさんのキャリアアップをお手伝いします。

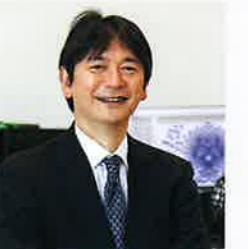
福井医療大学大学院は、リハビリテーションや看護を専門分野とする大学新卒者や、既にその臨床現場で活躍している方々、さらに医療・保健・福祉の分野に属する様々な方々が、より高い目標に向かって学習し、研究を行うことを目的としています。

博士前期課程は、専門性に富んだ3つのコースから成り、様々な機器を用いて新しい知見を見出す研究や、地域支援に繋がる研究を行い、幅広い知識や高度な専門性をもった高度専門職業人を養成します。博士後期課程では、博士前期課程での学びを基礎として、我が国が抱える人口減少という問題を取り組みます。具体的には、障害者や高齢者が自立して健康管理を行い、就労し、生産性を発揮できるような新しい支援技術の開発をテーマに、学生自らが研究を進め、さらに研究指導を行えるだけの力を養います。

本学の第一の特色は、総合病院、外来施設、精神病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設など様々な関連施設を有していることです。従って、様々な環境で、現場の医療スタッフとともに臨床研究を進めていくことが可能です。また、福井県リハビリテーション支援センター、福井県高次脳機能

能障害支援センター、福井県スポーツ医科学センターなどの委託事業を通して地域社会との連携を学ぶにはとても適した環境にあります。さらに、他大学との共同研究も行っており、幅広い分野での研究を行えます。第二の特色は、充実した研究環境です。MRI、SPECTはもとより、fMRI、fNIRS、デジタル脳波計、視線解析装置、筋電計、Driving Simulator、三次元動作分析システムなど様々な機器を用いた臨床研究を、関連施設で実際の患者さんにもご協力いただき形で進めていくことが可能です。また、動物実験を希望される学生には、専門の教員が指導させていただきます。従って、皆さんのアイデアを色々な形で具現化していただける環境を提供できます。

当大学院では、これらの特色を生かして、自己研鑽や社会貢献を目指したいという意欲のある皆さんのお入学をお待ちしています。



副学長・研究科長／博士(医学) 小林康孝

博士 前期課程

Master Course of Health Sciences

健康生活支援に焦点を当てた
3つのコースを設置。
高い倫理感と豊かな人間性を
兼ね備えた高度医療実践者、
研究者を養成します。



博士前期課程

養成する人材像

保健医療学分野を先導する研究・実践を行える人材

学問的基盤を有し、保健医療に関わる高度専門知識・技術を有する臨床実践者。すなわち、

- ①脳・神経領域における疾病・障害
- ②運動器領域における疾病・障害
- ③健康増進と再獲得及び疾病予防

これらに関する課題を解明する能力を身につけ、創造的・実践的な専門知識と専門技術を有する高度専門職業人。



高い倫理観と豊かな人間性をもって地域に貢献できる人材

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場において、地域住民に対する健康増進・再獲得、疾病予防・治療、障害予防・治療に関し、多職種連携の相互理解を図り、チーム医療に貢献できる指導的能力を持った実践者。

神経系リハビリテーションコースの履修例

1年前期			1年後期			2年前期			2年後期										
月	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	月	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	月	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	月	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30
火			必修	選択	火			必修		火			必修	必修		火		特別研究	特別研究
水				選択	水					水			選択	選択		水			
木			必修		木					木						木			
金					金					金			選択	特別研究		金			
土			特別研究		土					土						土			

2年間のスケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
入学		研究課題の決定及び計画の立案		研究課題の決定及び計画の立案		研究課題の決定及び計画の立案			
入学オリエンテーション		履修指導・研究課題の相談		「研究課題届出書」提出		研究計画に基づく研究の遂行			
研究領域および指導教員の希望									
1年次		10月	11月	12月	1月	2月	3月		
研究課題の決定及び計画の立案		研究計画に基づく研究の遂行		研究計画に基づく研究の遂行		研究計画に基づく研究の遂行			
4月		5月	6月	7月	8月	9月			
2年次		「中間発表会」での発表		論文の執筆		論文の提出			
10月		11月	12月	1月	2月	3月	修了式		
「論文審査申請書」の提出		論文の提出		論文の雑誌投稿		主査・副査による審査最終試験(口頭試問)		修了(学位記の交付)	

入学資格

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のいずれかの資格を有する者及び、当該年度に取得見込みの者。短期大学、専修学校、各種学校を卒業している者は、3年以上の勤務経験を有すること。

学生納付金 |

入学金	学費(前期分)	学費(後期分)	初年度納入金額
200,000*	300,000	300,000	800,000

*本学の卒業生は入学金免除

奨学金 | くわしくはお問い合わせください。

独立行政法人日本学生支援機構

■第一種奨学金 無利子

■第二種奨学金及び入学時特別増額貸与奨学金 利率上限(年3%)あり※在学中は無利子

博士後期課程

Doctor Program in Health Science

リハビリテーション学と看護学が
融合した幅広い研究を実施。
障害者や高齢者と地域・行政を繋ぎ、
地域連携の中核となって
地域包括ケアシステムと
その維持を推進できる
人材・教育者を養成します。

博士後期課程



養成する人材像

障害者や高齢者が就労を中心とした社会活動を営むにあたっての多様な課題を包括的に探究できる研究者の養成

- 障害者や高齢者が、自立した生活を営めるための生活基盤を維持し、身体面・精神面での健康管理能力を持つような新しい支援体制の確立ができる研究者
- 障害者や高齢者が、支援される対象ではなく、自立て就労し、生産性を発揮させるための、新しいリハビリテーション技術の開発ができる研究者

専門的知識と高い技術を備えた地域連携推進者
およびその指導者の育成

- 地域包括ケアシステムの確立とその維持に向けて、障害者や高齢者と地域・行政を繋ぐ地域連携を中心となって推進できる医療者、および将来に向けてこれらの人材を教育していく指導者
- 多職種連携による障害者・高齢者の就労支援を包括的に探究できる能力を備えた高度専門職業人および指導者



履修例

1年前期		1年後期		2年		3年									
AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30	AM	PM	18:20~19:50	20:00~21:30
月		必修		月				月				月			
火				火		特別研究	特別研究	火		特別研究	特別研究	火			
水		選択		水				水		特別研究	特別研究	水			
木	勤務	必修	選択	木				木				木			
金		必修		金		特別研究	特別研究	金		特別研究	特別研究	金			
土				土				土				土			

3年間のスケジュール

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
入学											
入学オリエンテーション		履修指導・研究課題の相談		「研究課題届出書」提出							
		研究領域および指導教員の希望									
10月	11月	12月	1月	2月	3月						
		研究課題の決定及び計画の立案				研究計画に基づく研究の遂行					
4月	5月	6月	7月	8月	9月						
		研究計画に基づく研究の遂行									
2年次		「中間発表会」での発表									
10月	11月	12月	1月	2月	3月						
		研究計画に基づく研究の遂行									
3年次						研究計画に基づく研究の遂行					
4月	5月	6月	7月	8月	9月						
		研究計画に基づく研究の遂行									
10月	11月	12月	1月	2月	3月						
		論文の執筆									
		「論文審査申請書」の提出									
						論文の提出					
						主査・副査による審査最終試験(口頭試問)					
										修了式	
											修了(学位記の交付)

入学資格

修士の学位を有する者又は入学時までに授与される見込みの者

学生納付金 |

入学金	学費(前期分)	学費(後期分)	初年度納入金額
200,000 [※]	300,000	300,000	800,000

※本学の卒業生は入学金免除

奨学金 | くわしくはお問い合わせください。

独立行政法人日本学生支援機構

■第一種奨学金 無利子

■第二種奨学金及び入学時特別増額貸与奨学金 利率上限(年3%)あり ※在学中は無利子

生活支援リハビリテーションコース

障害者や高齢者が、自立した生活を営むための生活基盤を維持できるような新しい支援体制の確立や、自立して就労し生産性を発揮できるようなリハビリテーション技術の開発ができる研究者を養成します。さらに、地域包括ケアシステムとその維持に向けて、障害者や高齢者と地域・行政を繋ぐ地域連携を軸となって推進できる医療者、およびこれらの人材を教育していくける指導者を養成します。

科目区分	授業科目の名称	配当年次						単位数	履修要件
		1前	1後	2前	2後	3前	3後		
共通科目	保健医療学特論	○						1	5単位
	生活支援リハビリテーション特論	○						2	
	研究デザイン特論	○						2	
専門科目	医学的診断技術研究	○						2	12単位
	ニューロリハビリテーション研究	○						2	
	生活支援研究	○						2	
	生活支援リハビリテーション特別研究	○	○	○	○	○	○	10	

- 大学、短期大学、企業等において研究開発に携わる研究者
- 医療機関、社会福祉施設、行政機関、教育機関などにおいて指導的役割を担う高度な専門性を持った医療者

VOICE

TEACHER'S VOICE

圧倒的な指導の手厚さで、あなたの研究をしっかりサポートします。

福井医科大学の博士課程の特長は、圧倒的な指導の手厚さです。する情熱、そして行動力さえあれば、知識や経験不足の心配はありません。また、本学には脳活動計測器をはじめとする様々な最新機材が整っているほか、母体である新田塙医療福祉センターには多くの医療・介護施設があるため、患者さまにご協力いただきことで多種多様な疾患や症状に対する応用的な研究ができます。研究を通して臨床活動はもちろん、みなさんの将来に幅広く役立つ、たくさんの気づきが得られるはずです。



生活支援リハビリテーション
コース 教授 藤田和樹

STUDENT'S VOICE

尊敬する先生方の下で、さらなる高みを目指す。

博士後期課程への進学の決め手となったのは、やはり「学びて学ぶことができた」と感じています。このような経験から、尊敬やさしさです。指導教官の先生方の手厚い指導のおかげもあり、前課程では無事に修士論文を執筆することができました。私の博士後期課程へと進学する決意を固めました。私の博士後期課程での実験の計画段階から様々なアドバイスを頂き、修正を繰り返す日々でしたが、先生方の研究における圧倒的な経験値から飛び出す意見は、新しい学びの連続でした。学生ごとの進捗を生かして、内容をより洗練していく、研究成果の公表に取り組んでいきたいと思います。



生活支援リハビリテーション
コース 小川智生
(福井総合病院勤務)



教員紹介および研究テーマ

氏名	役職	学位・資格	研究テーマ	前期	後期
山口 明夫 Email:yamaaki	学長・教授	医学博士・医師	○癌の浸潤・転移機構の解明 ○進行大腸癌の予後予測に関する研究		生
小林 康孝 Email:yasutaka_k	副学長・研究科長 (大学院)・教授	博士(医学)・医師	○脳損傷による高次脳機能障害の病態解析 ○高次脳機能障害者の自動車運転再開 ○fMRI・脳波を用いた脳機能解析	神	生
林 浩嗣 Email:khayashi	教授	博士(医学)・医師	○脳血管障害患者の予後予測 ○神経変性疾患のリハビリテーション ○脳血管障害・神経変性疾患・認知症へのリハビリテーション栄養	神	生
佐藤 万美子 Email:satomoko	教授 (前期課程)	博士(医学)・医師	○脳損傷に伴う痙攣のメカニズム解明とアプローチ法 ○脳卒中片麻痺の回復過程に関する分析 ○ICPに準拠した高次脳機能障害者の自動車運転再開支援	神	生
堀 秀昭 Email:rpt-hori	学部長・教授	博士(医学)・理学療法士・社会福祉士	○介護予防と健康寿命の延伸 ○生涯スポーツと健康増進 ○地域参加と社会資源の活用 ○地域包括ケアシステム	神	生
藤本 昭 Email:akira-f	教授	博士(医学)・理学療法士	○高齢者に対する転倒予測指標 ○虚弱老人の介護予防対策	神	
石田 圭二 Email:ishida-ot	教授	博士(工学)・作業療法士	○脳卒中片麻痺上肢の機能評価 ○脳卒中片麻痺に対する上肢訓練 ○上肢訓練ロボット ○作業療法実践に関する質的研究	神	
堀 敦志 Email:otr5458	教授	博士(工学)・作業療法士・介護支援専門員	○認知症の予防および早期発見 ○高齢者の住環境と満足度 ○環境整備による在宅生活支援および開発 ○在宅生活維持のためのマネジメント技術の活用	神	
塩見 格一 Email:k-shiomi	教授	理学博士	○カオス理論を利用した発話音声分析技術 ○発話音声による脳機能状態の推定 ○ストレス状態とパフォーマンス評価のためのアプリケーションの開発	神	生
藤田 和樹 Email:k.fujita	准教授	博士(医学／保健学)・理学療法士	○歩行の障害解析およびリハビリテーション法の考案 ○痙攣に対するリハビリテーション ○各種疾患および障害の生体運動・筋活動分析	神	生
川端 香 Email:kawabata-ot	准教授	博士 (リハビリテーション療法学)・作業療法士	○高次脳機能障害とSelf-Awareness ○高次脳機能障害者の社会復帰支援 ○脳損傷後の自動車運転再開支援	神	生
保屋野 健悟 Email:k.hoyano	講師	博士(工学)・言語聴覚士	○社会認知機能と嚥下機能の関係 ○環境因子を利用して摂食嚥下リハビリテーションの開発 ○摂食嚥下障害に対するリハビリテーション実践 ○社会認知機能とコミュニケーションの関係	神	
近藤 仁 Email:hitoshik	准教授	博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスリティックトレーナー	○足関節背屈制限による関節運動連鎖への影響 ○抵抗位置の違いによる筋発揮能力への影響 ○スポーツ傷害と発生メカニズムとの関係	運	
東 伸英 Email:n_azuma	講師	博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスリティックトレーナー	○スポーツ傷害の評価、治療、予防対策に関する研究 ○検診やメディカルチェックを用いたアスリートへの支援 ○学校保健領域の傷害予防に関する研究	運	
供田 文宏 Email:tomoda	教授	医学博士・医師	○腎臓病における腎微小循環の異常とその成因 ○高血圧での交感神経系と神経成長因子との関連 ○生活習慣病におけるストレス反応の病態生理学的な意義 ○血液透析患者での至適透析の確立 ○血液透析患者とサルコペニア	健	生
小俣 直人 Email:omata	教授	博士(医学)・医師	○内因性精神疾患の病態解明 ○単一精神疾患の復権 ○多職種による連携した研究の推進	健	生
北川 敦子 Email:akbear	教授	博士(保健学)・看護師	○褥瘡やスキンテラなどの皮膚障害に対する全人的看護方法の確立 ○終末期非がん疾患などのがん以外のスピリチュアルペインの解明とそのケア方法 ○慢性期疾患患者および家族が抱える生活の再構築に困難な要因とその支援方法 ○エンド・オブ・ライフケア	健	生
吉田 美幸 Email:myoshida	教授	博士(看護学)・看護師	○医療・保健場面における子どもと家族の理解と支援に関する研究 ○子育て支援に関する研究	健	
寺島 喜代子 Email:kytera	教授 (前期課程)	博士(医学)・看護師	○心臓手術を受けた高齢者の社会復帰後の活動量とQOLの推移 ○脆弱な高齢者に対する看護実践との評価 ○せん妄や認知症高齢者に対する看護実践とその評価 ○高齢者施設での看取りケアにおける看護師が直面する困難の実際 ○看護実践から学びを深めるリフレクションの実際	健	生
吉江 由加里 Email:y-yoshie	准教授	博士(保健学)・看護師	○回復期リハビリテーション病棟看護師の多職種連携・協働モデルの開発 ○専門職連携総合力教育プログラムの構築 ○組織マネジメントに関する研究	健	
近田 真美子 Email:mkonda	准教授	博士(人間科学)・看護師・保健師	○精神看護実践の現象学的研究 ○重度の精神疾患を抱えた利用者の地域生活支援 (ACT/Assertive Community Treatment)	健	
猪口 徳一 Email:tiguchi	准教授	博士 (バイオサイエンス)	○遺伝情報に基づく器官形成の仕組みと病態解明に関する研究 ○生化学データ解析によるストレスや健康増進のための指標の探索 ○実験動物や培養神経細胞を用いた神経回路操作・神経再生の研究	健	生

※前期課程：神：神経系／運：運動器／健：健康生活支援　後期課程：生：生活支援